

# 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 【調査結果の概要】

令和3年10月

長野県教育委員会事務局心の支援課

## □調査の趣旨

児童生徒の問題行動・不登校等について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、その実態把握を行うことにより、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応、また、不登校児童生徒への適切な支援につなげていくもの。

□調査の主体 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課

□調査項目 いじめ 暴力行為 不登校（長期欠席） 高等学校中途退学 等

□調査期間 令和2年度間

□調査対象 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

## □長野県の結果【概要】

### ○ いじめの認知件数は8,638件（1,560件減）

- ・認知件数は、全国と同様に全校種で減少した。
- ・減少の背景に、新型コロナウイルス感染症の影響による児童生徒間の物理的な距離の広がりや様々な活動の制限、年間授業日数の減少等が考えられる。

### ○ 暴力行為の発生件数は891件（176件減）

- ・校種別では、全校種で暴力行為が減少。内容別では生徒間暴力が最も多く、いずれも全国と同様の傾向となっている。
- ・減少の背景に、いじめ同様に新型コロナウイルス感染症の影響が考えられる。

### ○ 小・中学校における不登校児童生徒数は3,802人（251人増）、高等学校では628人（98人減）

- ・不登校児童生徒数は8年連続で増加しており、全国と同様に過去最多となっている。
- ・増加の背景として、休養の必要性等を明示した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の趣旨の浸透、コロナ禍における生活環境の変化により登校する意欲が湧きにくい状況があったことなどが考えられる。

### ○ 高等学校中途退学者数は369人（242人減）

- ・中途退学者数は、全国と同様に大幅に減少した。
- ・事由別では、「進路変更」「学校生活・学業不適応」が主な理由となっている。

※文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の情報を利用し本資料を作成。文部科学省が都道府県別に公表していない項目等の長野県数値については、統計法第33条に基づく申請の上承諾を得ている。  
※構成比は、小数点第2位を四捨五入しているため、計と内訳の合計が一致しない場合がある。